

## 29年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 9月1日～ 29年9月11日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
9月分の回答企業数は16社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/9月	10月	11月
入荷動向	スギ	△ 5.0	20.0	25.0
	ヒノキ	7.1	28.6	28.6
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
消費動向	スギ	16.7	22.2	11.1
	ヒノキ	37.5	37.5	18.8
	カラマツ	0.0	50.0	50.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 5.6	11.1	11.1
	ヒノキ	△ 14.3	△ 14.3	△ 7.1
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材用原木の入荷動向は9月の減少から10月、11月は増加に。ヒノキは3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続減少。トドマツは9月の増加から10月、11月は横ばいに。

・スギ、ヒノキの消費動向は3カ月連続増加。カラマツは9月の横ばいから10月、11月は増加に。トドマツは9月の増加から10月、11月は横ばいに。

・スギの在庫動向は9月の減少から10月、11月は増加に。ヒノキ、カラマツとも3カ月連続減少。トドマツは3カ月連続横ばい推移。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	29/9月	10月	11月
スギ	13.6	22.7	18.2
ヒノキ	14.3	35.7	35.7
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ製材用原木の価格動向はやや強含み。カラマツ、トドマツとも保合い。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

- ・カラマツは風倒木処理や間伐施業（バイオマス優先）により造材量が減少。運材も同様。消費動向は、10月より産業用途向け需要増を見込む（北海道）
- ・山土場、工場土場にもある程度トドマツ原木を確保も、不足感はまだまだ有り。原木在庫に合わせて生産、受注は堅調。在庫は先月10日分、現段階では半月分（北海道）。
- ・少し在庫が重たいので減らす。消費量はほぼ変化なし。多少仕入れを減らして在庫を調整する（中部）。
- ・彼岸が過ぎて丸太の状態が良くなってくるので仕入を増やした。今の忙しい状態がもうしばらく続く見込み（中国）。
- ・特に入荷動向に変化なし。機械修理も予定通りで原木消費量は上向き（中国）。
- ・入荷は天候次第。但し、九州からの入荷が減っている。9月、10月は消費を増やすも11月は横ばいか。販売の動き次第。在庫は9月、10月は横ばい予定。11月からは増やす予定（中国）。
- ・入荷動向は記念市シーズンによる影響で原木の高騰が見込まれる。消費動向はKD構造材の品不足にもよるが、残業等による増産も考えられる（九州）。
- ・需要期に入り徐々に増産する（九州）。

## (原木価格)

- ・全道的に不足感あり。取り合いになれば価格上昇（北海道）。
- ・B材は安い（関東）。
- ・ヒノキは引き合いが強くなりつつあるので、多少単価が上昇すると思われる（中部）。
- ・スギ、ヒノキの単価はこのままで推移する見通し（中国）。
- ・荷動きの改善により若干の値上げが見られる（中国）。
- ・9月は少し上がると予想。10月、11月は横ばい予想（中国）。
- ・径級によってバラツキはあるが、B材価格の下支えが続きそうだ（九州）。
- ・ヒノキ丸太は9月、10月、11月少々価格は上昇気味（九州）。

## 29年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/9月	10月	11月
生産動向	スギ	8.3	25.0	25.0
	ヒノキ	25.0	43.8	37.5
	カラマツ	0.0	50.0	50.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	5.0	20.0	25.0
	ヒノキ	31.3	37.5	31.3
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	50.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 22.2	△ 33.3	△ 33.3
	ヒノキ	△ 18.8	△ 25.0	△ 18.8
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ製材品の生産動向は3カ月連続増加。カラマツは9月の横ばいから10月、11月は増加に。トドマツは9月の増加から10月、11月は横ばいに。

・スギ、ヒノキ製材品の出荷動向は3カ月連続増加。トドマツは9月の増加から10月、11月は横ばいに。

・スギ、ヒノキ製材品在庫動向は3カ月連続減少。カラマツ、トドマツは3カ月連続横ばい推移。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/9月	10月	11月
スギ	柱角 KD10.5×3	25.0	12.5	18.8
	柱角 KD12×3	28.6	16.7	16.7
	通し柱 12×6	10.0	0.0	0.0
	桁角	8.3	8.3	8.3
	母屋角	21.4	14.3	21.4
	タルキ	7.1	0.0	7.1
	間柱	21.4	14.3	21.4
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	8.3	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	16.7
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	28.6	21.4
柱角 KD12×3		14.3	21.4	14.3
土台角 10.5×4		35.7	28.6	28.6
土台角 12×4		21.4	35.7	35.7
通し柱 12×6		12.5	0.0	0.0
ラミナ		16.7	33.3	25.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格動向は、柱角KD10.5×3、12×3、桁角、母屋角、間柱はやや強含み。その他は保含い。

・ヒノキは通し柱は保含い。その他は強含み。

・カラマツは梱包仕組み板、ラミナとも保含い。

・トドマツサンギも保含い。

## モニターからのコメント

## (製材品荷動)

- ・既存客への安定販売に努める。出荷は堅調。その週の出荷分を生産、製品在庫は横ばい（北海道）。
- ・稼働日並みの生産。夏季休暇があるが前倒しでの納入などはなく、稼働日並みの荷動き。在庫は変化なし（中部）。
- ・丸太の増加に合わせて生産量をもう少し増やしたい。受注も順調、プレカットも年内は忙しい見込み。在庫はやや減少（中国）。
- ・機械修理が予定通りで生産は上向く。秋需に向けて出荷の上向きを期待。在庫調整が進み適正化へ（中国）。
- ・9～11月までは荷動きは良い感じ。出荷も良いと予想。在庫は荷動きが良いのでなかなか増やせない（中国）
- ・KD構造材の不足感にもよるが、多少の増産があるのでは。在庫動向は、KD構造材は不足感が続きそうだ（九州）。
- ・9月より残業を開始して生産。製材品の出荷は順調（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・製材品の価格は安定している。いつまで持つか（関東）。
- ・スギ製材品を上げたいがそこまでに至らず。ヒノキ土台角は引き合いがあり強含み（中部）。
- ・スギ、ヒノキとも柱角、土台角を中心に若干値上り気味（中国）。
- ・スギの3m 10.5×10.5は不足しているので価格は上向き。他の製品は値上げ傾向が見られない。ヒノキは柱角10.5×10.5は若干の値上げ。その他は変化なし（中国）。
- ・ヒノキ通し柱以外は上昇する様子（中国）。
- ・ヒノキ製材品価格は、9月、10月、11月少々上昇をお願いしている（九州）。

## 29年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

## イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/9月	10月	11月
仕入動向	米マツ丸太	100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	100.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入、消費動向は9月の増加から10月、11月は横ばいに。在庫動向は3カ月連続横ばい推移。

・NZラジアータは仕入、消費動向9月、10月の横ばいから11月は増加に。在庫動向は9月、10月の横ばいから11月は減少に。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/9月	10月	11月
米マツ丸太	50.0	50.0	0.0
NZラジアータ丸太	50.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・製材用原木の購入価格動向は米マツ、NZラジアータ丸太とも強含み。

## モニターからのコメント

## (原木荷動)

- ・ラジアータ丸太は、10月から需要期になるため入荷、消費とも増加。在庫は減少。

## (原木価格動向)

- ・集材の難しさが増す。米国の住宅着工の底堅さから今後とも強含み状態が続く。
- ・ラジアータ丸太は、フレートの上昇により製材用原木の購入価格はやや上昇。

29年9月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	29/9月	10月	11月
生産動向			
米マツ製材品	100.0	0.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	100.0	50.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は9月の増加から10月、11月は横ばいに。出荷動向は9月、10月の増加から11月は横ばいに。在庫動向は9月の横ばいから10月、11月は減少に。

・NZラジアータ製材品の生産、消費動向は9月の横ばいから10月、11月は増加に。在庫動向は9月、10月の横ばいから11月は減少に。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/9月	10月	11月
米マツ平角	50.0	50.0	0.0
米マツ正角	50.0	50.0	0.0
米マツ小割	50.0	50.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	50.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	50.0
NZ土木用材	0.0	0.0	50.0
その他	—	—	—

・米マツ製材品の出荷価格動向は平角、正角、小割とも強含み。

・NZラジアータ製材品は梱包材（割板、割角）、土木用材とも10月値上げにより強含み。

## モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・ラジアータ製材品は、生産、出荷とも増加。在庫は減少。

(製材品出荷価格動向)

- ・9月より値戻しを実施したが、9月、10月と小幅上昇する。その後は原木・製品の動向によるが、RWの需給に大きく影響される。
- ・梱包材（割板・割角）、土木用材とも10月より値上げ。